

『北海道「北極海航路」調査研究会』の開催

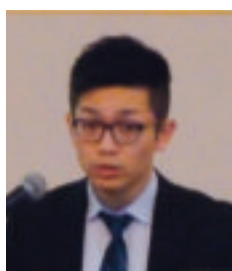
北海道総合政策部交通政策局交通企画課

平成31年3月7日(木)、北海道は『北海道「北極海航路」調査研究会』をホテルポールスター札幌において、北海道経済同友会「北極海航路研究ワーキング」と共同で開催し、道内の経済界や行政機関、港湾管理者など約70名の関係者が参加しました。



会場の様子

はじめに、国土交通省総合政策局海洋政策課の水島諒大主査からは、「北極海航路の最近の動向について」と題し、国土交通省における取組や2018年の北極海航路利用状況について、2017年を上回る約1,600万トン(速報値)が輸送され、過去最高を更新したことなどが報告されました。



国土交通省
水島主査

続いて、北海道大学北極域研究センターの大塚夏彦教授からは、「ロシアの北極海航路開発動向」と題し、北極域におけるエネルギー資源開発と砕氷船の整備計画のほか、北極海航路の新たな管理体制や航行規則の緩和による今後の可能性と課題について、報告されました。



北海道大学
大塚教授

その後、話題提供として現地調査の報告を2件行いました。

1件目は、(株)北海道二十一世紀総合研究所の中村栄作代表取締役社長(北海道経済同友会幹事)から、「ロシア現地調査(ヤマルLNG、サンクトペテルブルク)」

と題し、昨年7月に訪問したヤマル半島サベッタにあるヤマルLNGプロジェクトの現地情報や、サンクトペテルブルクでの造船所や研究所の視察状況などについて報告されました。



(株)北海道二十一世紀
総合研究所
中村代表取締役社長

2件目は、道交通企画課から、「ロシア現地調査報告～カムチャッカ地方～」と題し、昨年10月に訪問したペトロパブロフスク・カムチャッキーにおけるLNG積替基地計画などの北極海航路の開発戦略や港湾インフラをはじめとするカムチャッカ地方の開発状況について、報告を行いました。



ペトロパブロフスク・カムチャッキー港

なお、カムチャッカ現地調査については、前号(Vol.127)にも調査概要が掲載されています。

最後に、情報提供として、道が今年度の委託事業として実施している「北極海航路の拠点形成に向けた検討事業」の受託者である北日本港湾コンサルタント(株)の市川克己次長から、北海道港湾の拠点化に向けた貨物集約手法や北極海航路の活用に向けて引き続き検討すべき事項などについて、報告を行いました。



北日本港湾
コンサルタント(株)
市川次長

道では、今後とも関係者間の情報共有を図りながら、産学官の連携による北極海航路の拠点形成に向け、取り組んでまいりたいと考えています。